

令和4年度 第2回
さいたま市インターネット市民意識調査
【調査報告書】

令和4年9月

さいたま市市長公室秘書広報部広聴課

インターネット市民意識調査 【調査報告書】

目次

| | | |
|---|---|----|
| 1 | 調査企画とサンプル構成 | 1 |
| 2 | 調査結果 | 3 |
| | SC1. 居住地 | 4 |
| | 【「市報さいたま」の配布と電子版の利用に関するアンケート】 | 5 |
| | Q1. 「市報さいたま」を入手したことがある施設（複数回答） | 5 |
| | Q2. Q1の施設以外で「市報さいたま」を入手できると便利な場所（複数回答） | 6 |
| | Q3. 「市報さいたま」電子版の閲読経験 | 7 |
| | Q4. 「市報さいたま」電子版を読んだことがある媒体（複数回答） | 8 |
| | Q5. 「市報さいたま」の自宅配布が必要だと思うか | 9 |
| | 【さいたま市の保健センターに関するアンケート】 | 10 |
| | Q6. さいたま市の保健センターの認知度 | 10 |
| | Q7. さいたま市の保健センターで利用したことがあるもの（複数回答） | 11 |
| | Q8. インターネット上の動画視聴について、あてはまるもの | 12 |
| | Q9. Web会議システムによる健康づくり教室等への参加意欲 | 14 |
| | Q10. Web会議システムによる健康づくり教室等に「参加したいと思わない」「わからない」理由（複数回答） | 15 |
| | 【火葬残灰（残骨灰）に関するアンケート】 | 16 |
| | Q11. 収骨後、火葬残灰が残ることの認知度 | 16 |
| | Q12. 火葬残灰に有害性物質が付着することの認知度 | 17 |
| | Q13. 火葬残灰に有価物が含まれていることの認知度 | 18 |
| | Q14. 火葬残灰の有価物を火葬場運営に役立てていることの認知度 | 19 |
| | Q15. 火葬残灰に含まれる有価物を火葬場の運営に役立てることをどう思うか | 20 |
| | 【スマートシティに関するアンケート】 | 21 |
| | Q16. 「スマートシティ」の認知度 | 21 |
| | Q17. 新技術やデータを活用したサービスとして、特に期待している分野（複数回答） | 22 |
| | Q18. 行政や民間事業者等がパーソナルデータを活用することをどう思うか | 23 |
| | Q19. インフルエンザ予報の認知度 | 26 |
| 3 | 調査票（アンケート画面） | 27 |

1 調査企画とサンプル構成

1-1 調査目的

市が事業を推進するにあたり、迅速に市民意識を把握することができるよう、インターネットを活用した市民意識調査を実施する。

1-2 調査地域

さいたま市

1-3 調査対象者

対象者条件：さいたま市在住の18歳～69歳の男女

18～29歳、30代、40代、50代、60代の5年年齢層において、各年齢層の男女各100サンプル、合計1,000サンプルを対象とする。

1-4 有効回答数

無作為配信により、合計1,000サンプルを回収した。

(人)

| | 18～29歳 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 合計 |
|----|--------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 男性 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 500 |
| 女性 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 500 |
| 合計 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 | 1,000 |

(参考) なお、各区の有効回答数は下表の通りである。

(人)

| さいたま市 | 男性 | | | | | | 女性 | | | | | | 合計 |
|-------|--------|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| | 18-29歳 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 計 | 18-29歳 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 計 | |
| 西区 | 9 | 4 | 7 | 4 | 6 | 30 | 6 | 4 | 10 | 2 | 5 | 27 | 57 |
| 北区 | 12 | 9 | 11 | 10 | 12 | 54 | 10 | 13 | 17 | 10 | 14 | 64 | 118 |
| 大宮区 | 12 | 16 | 8 | 6 | 9 | 51 | 6 | 11 | 10 | 10 | 9 | 46 | 97 |
| 見沼区 | 7 | 10 | 17 | 11 | 8 | 53 | 12 | 17 | 7 | 16 | 7 | 59 | 112 |
| 中央区 | 10 | 7 | 13 | 17 | 9 | 56 | 6 | 9 | 6 | 10 | 6 | 37 | 93 |
| 桜区 | 11 | 7 | 5 | 13 | 4 | 40 | 6 | 4 | 10 | 7 | 5 | 32 | 72 |
| 浦和区 | 12 | 17 | 11 | 10 | 23 | 73 | 22 | 15 | 11 | 19 | 21 | 88 | 161 |
| 南区 | 16 | 17 | 11 | 15 | 19 | 78 | 15 | 12 | 15 | 12 | 13 | 67 | 145 |
| 緑区 | 4 | 10 | 7 | 7 | 5 | 33 | 6 | 11 | 8 | 4 | 12 | 41 | 74 |
| 岩槻区 | 7 | 3 | 10 | 7 | 5 | 32 | 11 | 4 | 6 | 10 | 8 | 39 | 71 |
| 合計 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 500 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 500 | 1000 |

1-5 調査方法

インターネット調査（調査会社の登録モニターによるWEB調査）

1-6 実施時期

令和4年8月5日（金）～8月12日（金）

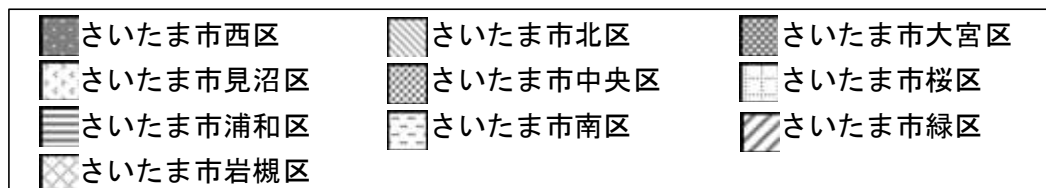
1-7 調査実施機関

株式会社サーベイリサーチセンター

2 調査結果

SC1. 居住地

あなたのお住まいをお答えください。

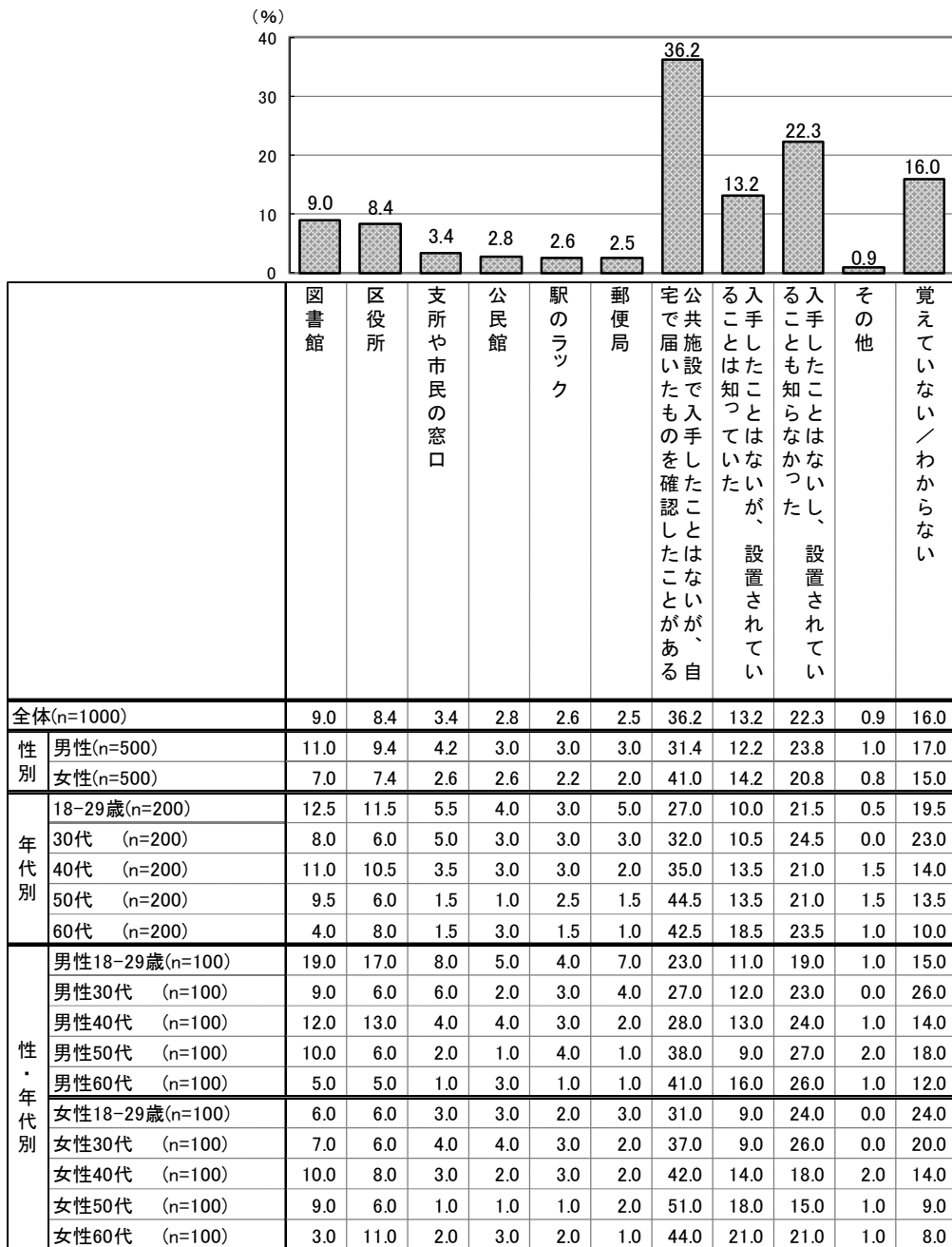


【「市報さいたま」の配布と電子版の利用に関するアンケート】

Q1. 「市報さいたま」を入手したことがある施設（複数回答）

あなたは、図書館等の公共施設や郵便局、市内各駅に設置されているラック等から「市報さいたま」を入手したことがありますか。

以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



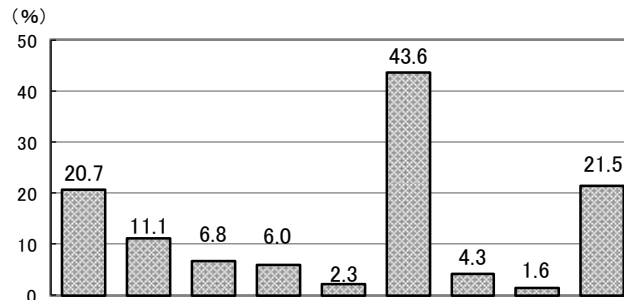
【全体結果】「図書館」が9%で最も高く、「区役所」(8%)が続いた。

◎性別で見ると、「公共施設で入手したことはないが、自宅で届いたものを確認したことがある」は、女性(41%)が男性(31%)よりも10ポイント高かった。

◎年代別で見ると、「入手したことはないが、設置されていることは知っている」は、年代が上がるにつれて高くなる傾向があり、60代で19%であった。

Q2. Q1の施設以外で「市報さいたま」を入手できると便利な場所（複数回答）

あなたは、Q1の施設以外で「市報さいたま」をどこで入手できると便利だと感じますか。以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



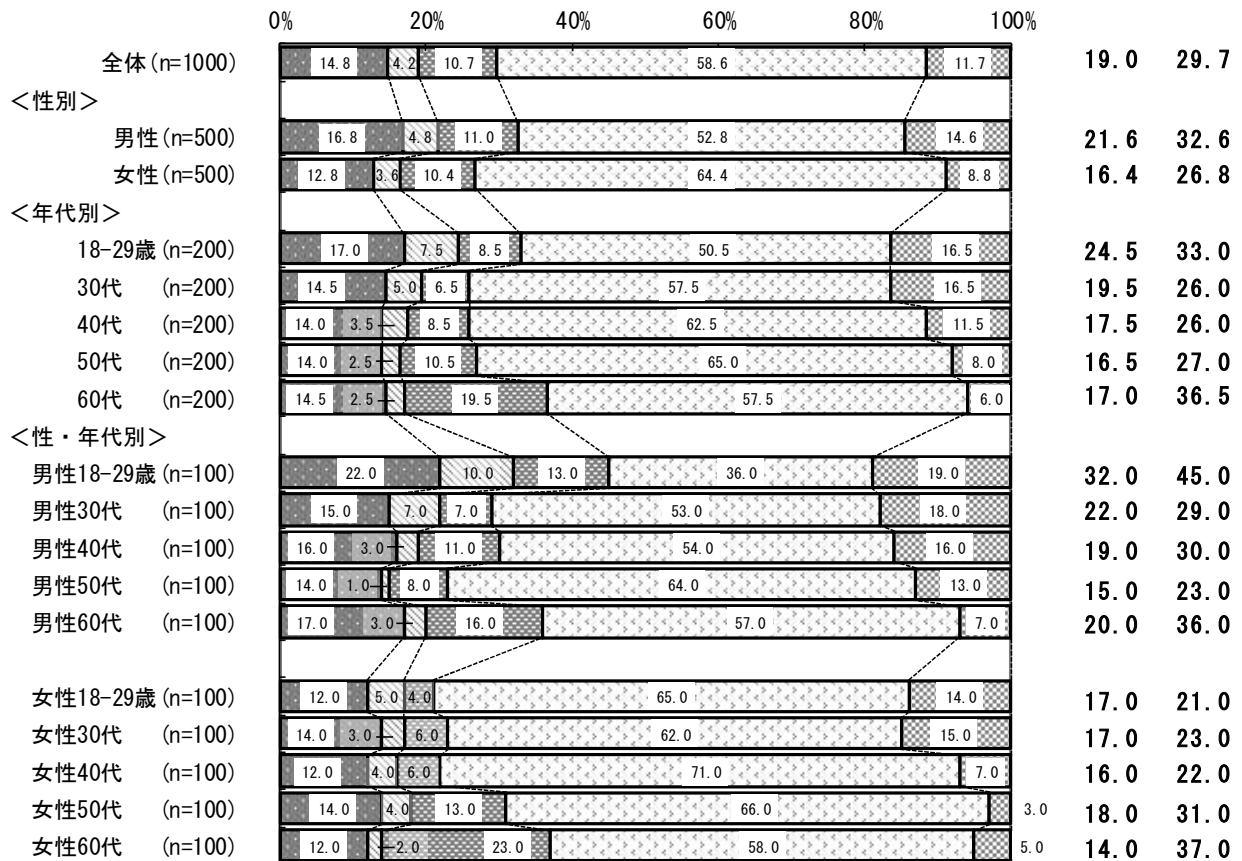
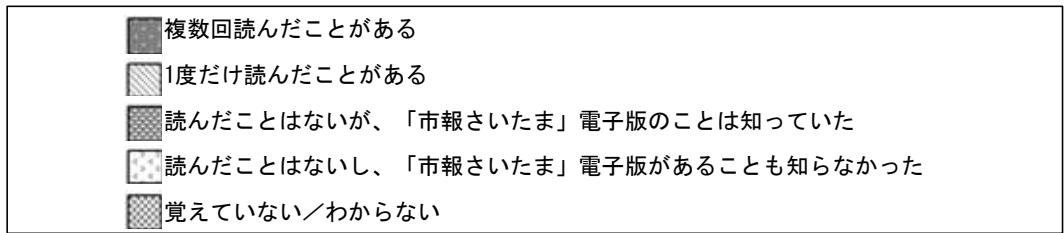
| | コンビニエンスストア | 大型商業施設 | 病院 | 銀行等の金融機関 | 上記Q1の施設で入手する必要はない | 自宅に届くため、Q1及びQ2の施設で入手する必要はない | Q2の施設で入手するため、Q1及び電子媒体で閲覧するため、Q1及び電子媒体で入手する必要はない | その他 | わからない | |
|---------------|-----------------|--------|------|----------|-------------------|-----------------------------|---|-----|-------|------|
| 全体(n=1000) | 20.7 | 11.1 | 6.8 | 6.0 | 2.3 | 43.6 | 4.3 | 1.6 | 21.5 | |
| 性別 | 男性(n=500) | 21.2 | 11.4 | 5.8 | 6.6 | 2.4 | 39.6 | 5.0 | 2.4 | 23.8 |
| | 女性(n=500) | 20.2 | 10.8 | 7.8 | 5.4 | 2.2 | 47.6 | 3.6 | 0.8 | 19.2 |
| 年代別 | 18-29歳(n=200) | 28.0 | 16.5 | 6.5 | 9.0 | 1.5 | 27.5 | 4.5 | 0.0 | 28.0 |
| | 30代 (n=200) | 23.5 | 10.0 | 9.0 | 3.0 | 1.5 | 35.0 | 4.0 | 2.5 | 30.0 |
| | 40代 (n=200) | 20.0 | 9.5 | 3.5 | 9.0 | 3.5 | 46.5 | 2.0 | 2.0 | 21.5 |
| | 50代 (n=200) | 17.0 | 10.5 | 9.5 | 4.5 | 3.5 | 53.0 | 6.0 | 0.5 | 15.5 |
| | 60代 (n=200) | 15.0 | 9.0 | 5.5 | 4.5 | 1.5 | 56.0 | 5.0 | 3.0 | 12.5 |
| 性・年代別 | 男性18-29歳(n=100) | 30.0 | 20.0 | 5.0 | 13.0 | 1.0 | 24.0 | 5.0 | 0.0 | 28.0 |
| | 男性30代 (n=100) | 27.0 | 7.0 | 8.0 | 3.0 | 2.0 | 30.0 | 4.0 | 3.0 | 31.0 |
| | 男性40代 (n=100) | 20.0 | 11.0 | 4.0 | 8.0 | 4.0 | 44.0 | 1.0 | 3.0 | 24.0 |
| | 男性50代 (n=100) | 15.0 | 11.0 | 6.0 | 5.0 | 4.0 | 50.0 | 9.0 | 1.0 | 19.0 |
| | 男性60代 (n=100) | 14.0 | 8.0 | 6.0 | 4.0 | 1.0 | 50.0 | 6.0 | 5.0 | 17.0 |
| | 女性18-29歳(n=100) | 26.0 | 13.0 | 8.0 | 5.0 | 2.0 | 31.0 | 4.0 | 0.0 | 28.0 |
| | 女性30代 (n=100) | 20.0 | 13.0 | 10.0 | 3.0 | 1.0 | 40.0 | 4.0 | 2.0 | 29.0 |
| | 女性40代 (n=100) | 20.0 | 8.0 | 3.0 | 10.0 | 3.0 | 49.0 | 3.0 | 1.0 | 19.0 |
| | 女性50代 (n=100) | 19.0 | 10.0 | 13.0 | 4.0 | 3.0 | 56.0 | 3.0 | 0.0 | 12.0 |
| 女性60代 (n=100) | 16.0 | 10.0 | 5.0 | 5.0 | 2.0 | 62.0 | 4.0 | 1.0 | 8.0 | |

【全体結果】「コンビニエンスストア」が21%で最も高く、「大型商業施設」(11%)が続いた。

◎年代別で見ると、「コンビニエンスストア」は、年代が下がるにつれて高くなり、18-29歳で28%であった。一方、「自宅に届くためQ1及びQ2の施設で入手する必要はない」は、年代が上がるにつれて高くなり、60代で56%であった。

Q3. 「市報さいたま」 電子版の閲読経験

あなたは、「市報さいたま」の電子版を読んだことがありますか。



【全体結果】「複数回読んだことがある」(15%)と「1度だけ読んだことがある」(4%)を合わせた『閲読率』は、19%であった。
 「複数回読んだことがある」(15%)と「1度だけ読んだことがある」(4%)と「読んだことはないが、市報さいたま電子版のことは知っていた」(11%)を合わせた『認知率』は、30%であった。

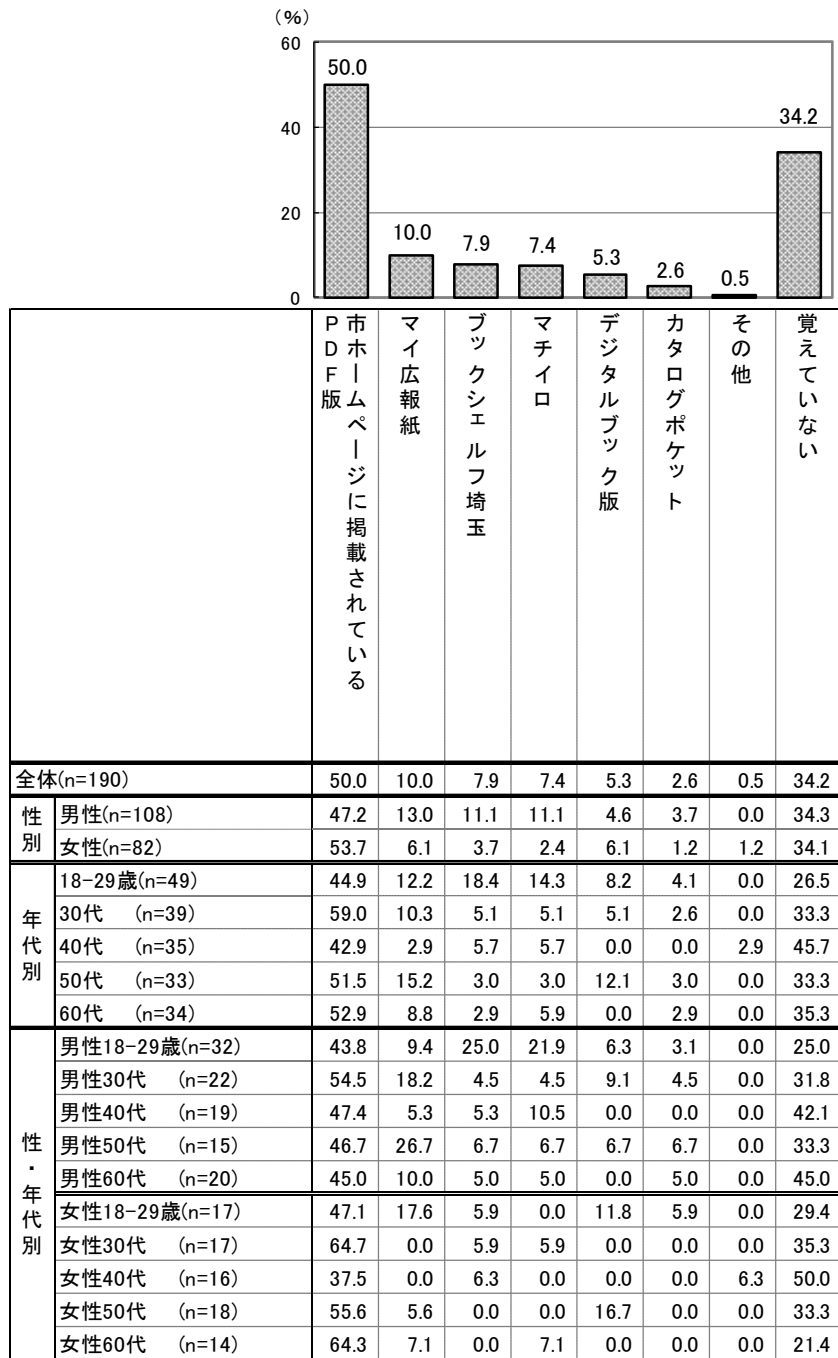
◎性別で見ると、『閲読率』は、男性(22%)が女性(16%)よりも6ポイント高かった。
 ◎性・年代別で見ると、『認知率』は、女性では、年代が上がるにつれて高くなり、60代で37%であった。

(Q3で、「複数回読んだことがある」、「1度だけ読んだことがある」を回答した人が対象)

Q4. 「市報さいたま」電子版を読んだことがある媒体（複数回答）

あなたは、どの電子媒体で「市報さいたま」電子版を読んだことがありますか。

以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。

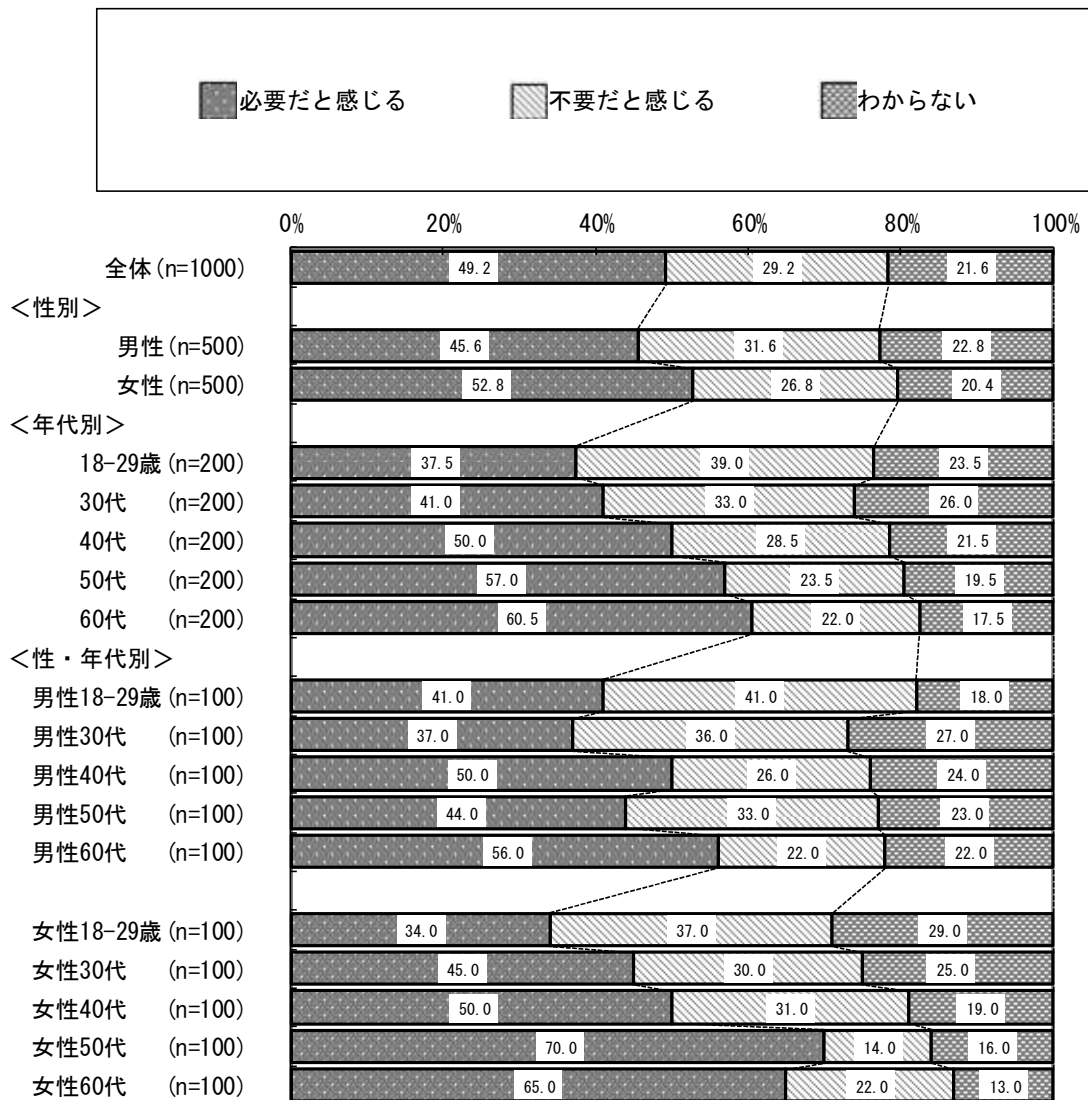


【全体結果】市報さいたまの電子版を読んだことがある人（190人）に、どの電子媒体で読んだか聞いたところ、「市ホームページに掲載されているPDF版」が50%で最も高く、「マイ広報紙」（10%）、「ブックシェルフ埼玉」（8%）が続いた。

◎性別で見ると、「市ホームページに掲載されているPDF版」は、女性（54%）が男性（47%）よりも7ポイント高かった。

Q5. 「市報さいたま」の自宅配布が必要だと思うか

「市報さいたま」は市内の施設等に設置しており、電子版でも公開していますが、紙媒体での自宅配布も必要だと感じますか。



【全体結果】 「必要だと感じる」は49%、「不要だと感じる」は29%であった。

◎性別で見ると、「必要だと感じる」は、女性（53%）が男性（46%）よりも7ポイント高かった。

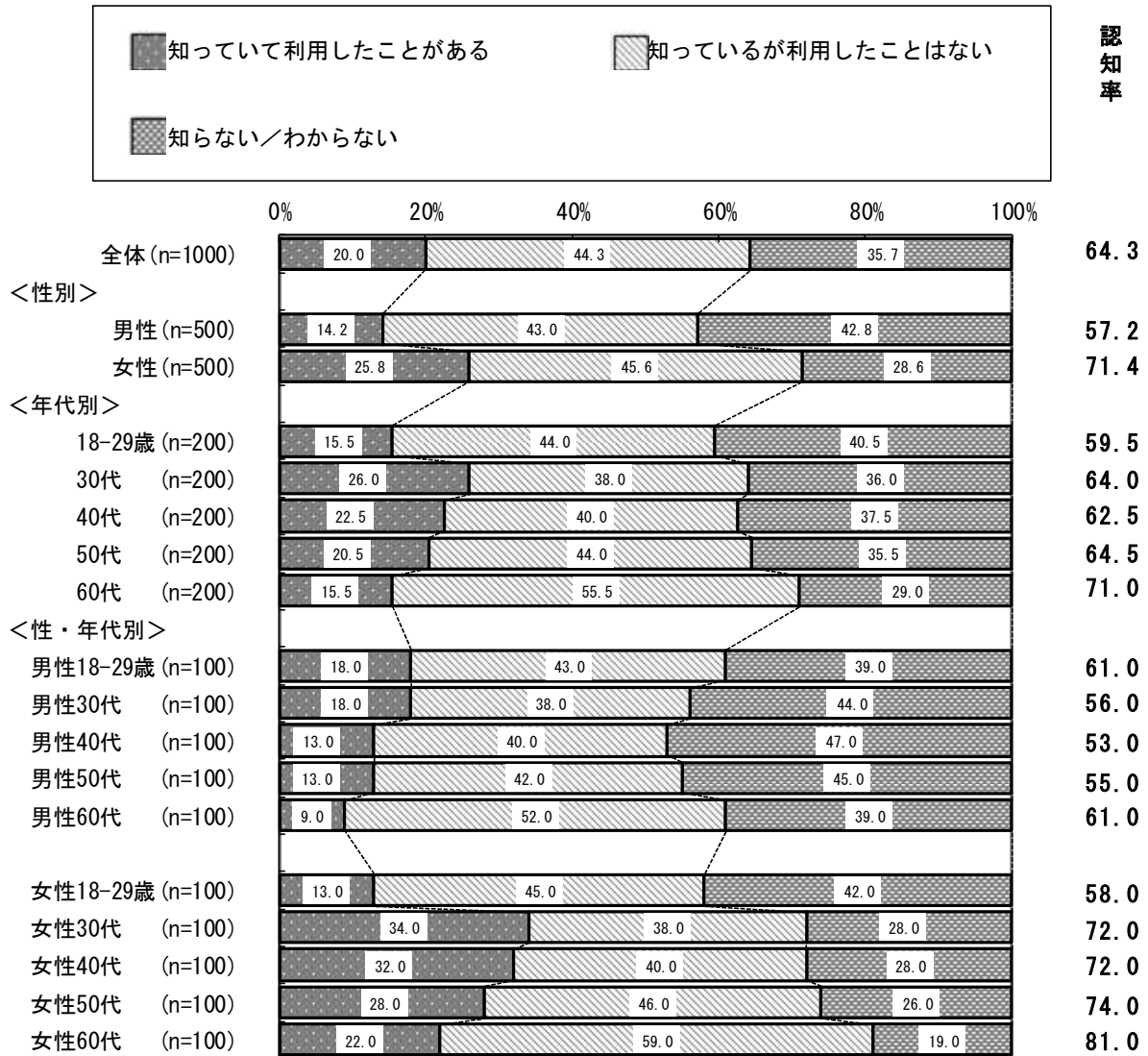
◎年代別で見ると、「必要だと感じる」は、年代が上がるにつれて高くなり、60代で61%であった。

【さいたま市の保健センターに関するアンケート】

Q6. さいたま市の保健センターの認知度

保健センターでは、保健師、管理栄養士、歯科衛生士等が妊娠・出産・育児や生活習慣病予防、市民の皆様の健康づくりのための各種健康教室・相談等を実施しています。

あなたは、さいたま市の保健センターを知っていますか。



【全体結果】「知っている利用したことがある」(20%)と「知っているが利用したことはない」(44%)を合わせた『認知率』は、64%であった。

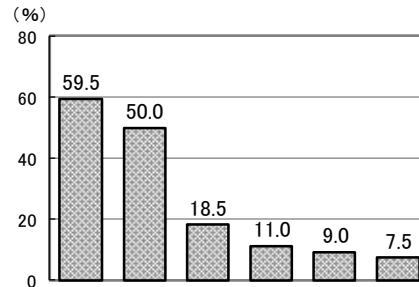
◎性別で見ると、『認知率』は、女性(71%)が男性(57%)よりも14ポイント高かった。
◎性・年代別で見ると、「知っている利用したことがある」は、女性30代で最も高く、34%であった。

(Q6で、「知っている・利用したことがある」を回答した人が対象)

Q7. さいたま市の保健センターで利用したことがあるもの (複数回答)

さいたま市の保健センターで利用したことがあるものは何ですか。

以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



| | | 教室 | 妊産婦・子どもの健康に関する相談や母子健康手帳の交付 | 保健所業務に係る申請 | 成人の健康に関する相談や健康づくり | その他 | 覚えていない |
|--------------|----------------|------|----------------------------|------------|-------------------|------|--------|
| 全体(n=200) | | 59.5 | 50.0 | 18.5 | 11.0 | 9.0 | 7.5 |
| 性別 | 男性(n=71) | 42.3 | 43.7 | 26.8 | 16.9 | 9.9 | 14.1 |
| | 女性(n=129) | 69.0 | 53.5 | 14.0 | 7.8 | 8.5 | 3.9 |
| 年代別 | 18-29歳(n=31) | 32.3 | 45.2 | 22.6 | 16.1 | 3.2 | 22.6 |
| | 30代 (n=52) | 69.2 | 75.0 | 17.3 | 5.8 | 0.0 | 1.9 |
| | 40代 (n=45) | 73.3 | 55.6 | 11.1 | 4.4 | 13.3 | 2.2 |
| | 50代 (n=41) | 61.0 | 31.7 | 29.3 | 12.2 | 12.2 | 7.3 |
| | 60代 (n=31) | 48.4 | 29.0 | 12.9 | 22.6 | 19.4 | 9.7 |
| 性別・年代別 | 男性18-29歳(n=18) | 27.8 | 38.9 | 22.2 | 22.2 | 0.0 | 27.8 |
| | 男性30代 (n=18) | 55.6 | 66.7 | 27.8 | 11.1 | 0.0 | 5.6 |
| | 男性40代 (n=13) | 46.2 | 38.5 | 30.8 | 15.4 | 23.1 | 7.7 |
| | 男性50代 (n=13) | 46.2 | 46.2 | 38.5 | 15.4 | 15.4 | 7.7 |
| | 男性60代 (n=9) | 33.3 | 11.1 | 11.1 | 22.2 | 22.2 | 22.2 |
| | 女性18-29歳(n=13) | 38.5 | 53.8 | 23.1 | 7.7 | 7.7 | 15.4 |
| | 女性30代 (n=34) | 76.5 | 79.4 | 11.8 | 2.9 | 0.0 | 0.0 |
| | 女性40代 (n=32) | 84.4 | 62.5 | 3.1 | 0.0 | 9.4 | 0.0 |
| | 女性50代 (n=28) | 67.9 | 25.0 | 25.0 | 10.7 | 10.7 | 7.1 |
| 女性60代 (n=22) | 54.5 | 36.4 | 13.6 | 22.7 | 18.2 | 4.5 | |

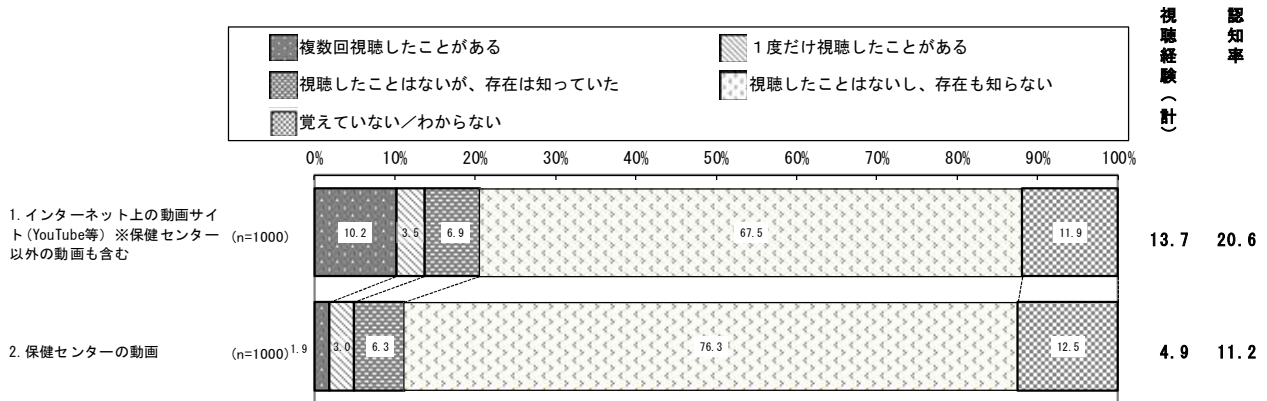
【全体結果】さいたま市の保健センターを利用したことがある人 (200 人) に、利用したことがあるものを聞いたところ、「妊産婦・子どもの健康に関する相談や教室」が60%で最も高く、「母子健康手帳の交付」(50%)、「保健所業務に係る申請」(19%)が続いた。

◎性別で見ると、「妊産婦・子どもの健康に関する相談や教室」は、女性 (69%) が男性 (42%) よりも 27 ポイント高かった。

Q8. インターネット上の動画視聴について、あてはまるもの

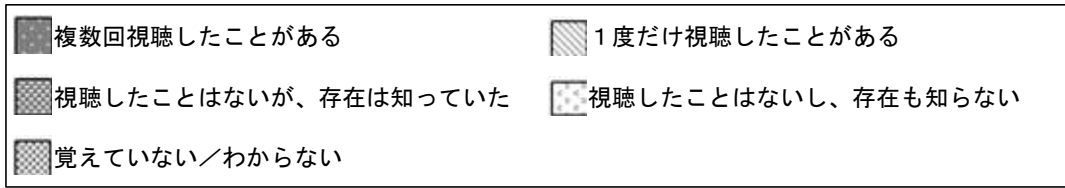
さいたま市ではインターネット上の動画サイト（YouTube）で保健センターの教室（離乳食教室等）の動画を配信しています。

インターネット上の動画視聴について、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

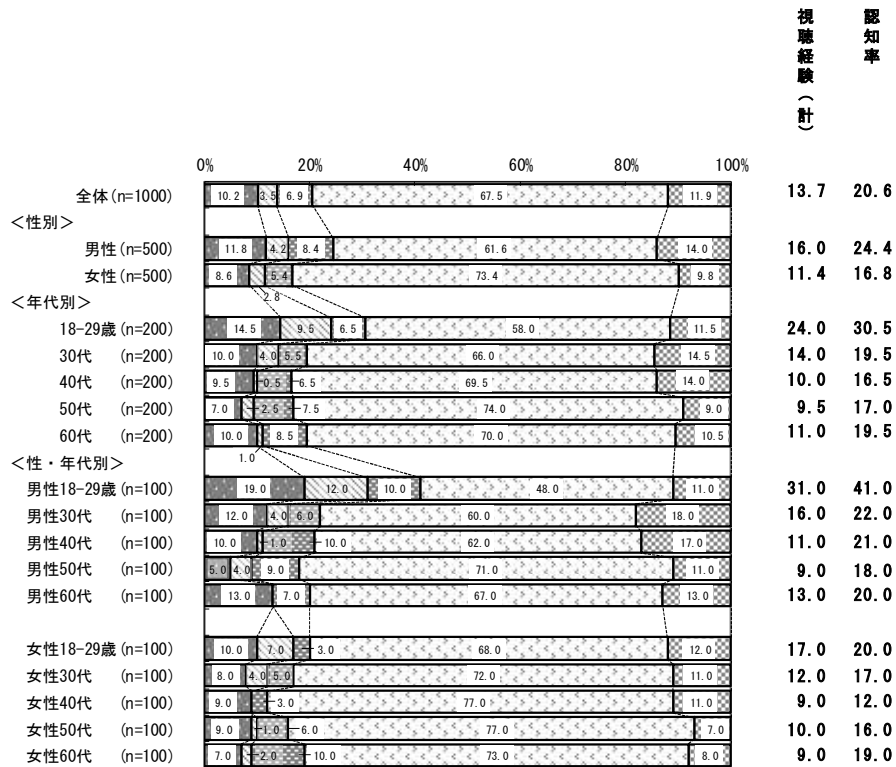


1. インターネット上の動画サイト (YouTube 等) ※保健センター以外の動画も含む
【全体結果】「複数回視聴したことがある」と「1度だけ視聴したことがある」を合わせた『視聴経験(計)』は、14%であった。
 「複数回視聴したことがある」と「1度だけ視聴したことがある」と「視聴したことはないが、存在は知っていた」を合わせた『認知率』は、21%であった。

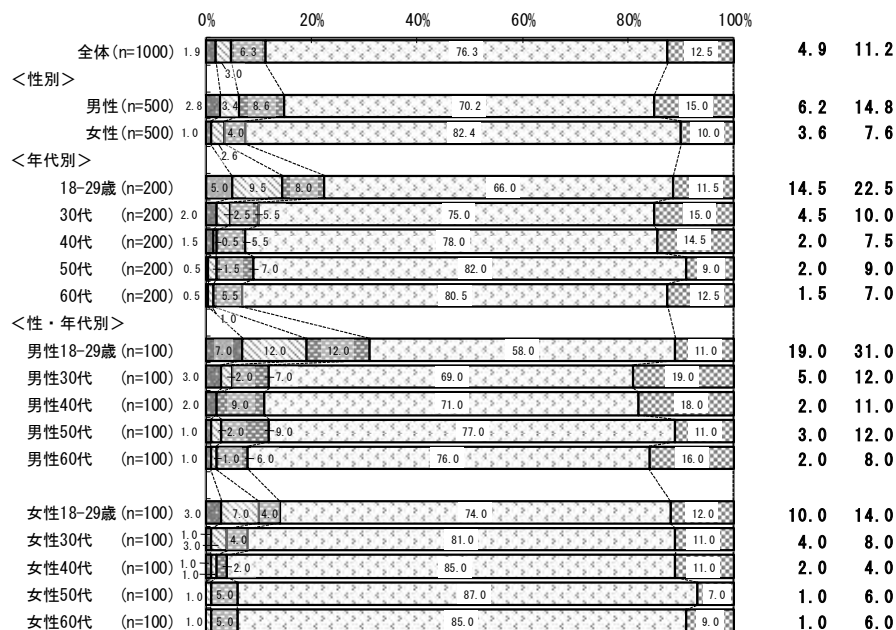
2. 保健センターの動画
【全体結果】「複数回視聴したことがある」と「1度だけ視聴したことがある」を合わせた『視聴経験(計)』は、5%であった。
 「複数回視聴したことがある」と「1度だけ視聴したことがある」と「視聴したことはないが、存在は知っていた」を合わせた『認知率』は、11%であった。



1. インターネット上の動画サイト(YouTube等) ※保健センター以外の動画も含む

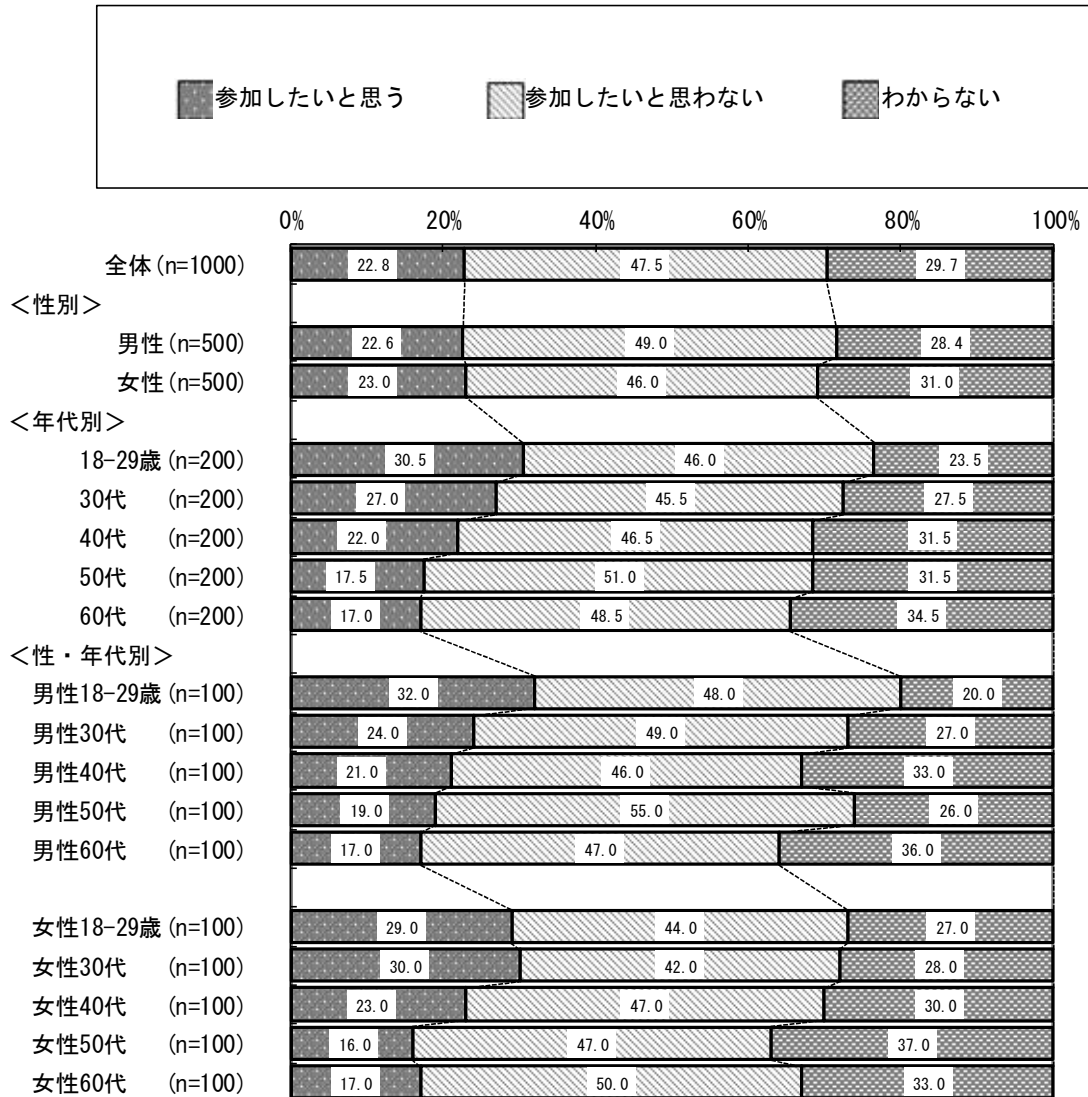


2. 保健センターの動画



Q9. Web会議システムによる健康づくり教室等への参加意欲

あなたは、保健センターでWeb会議システム（Zoom、Teams等）による健康づくり教室（ストレッチや運動、栄養・食生活に関するもの）や妊娠・出産、育児に関する教室を開催する場合、参加したいと思いますか。



【全体結果】「参加したいと思う」は23%、「参加したいと思わない」は48%であった。

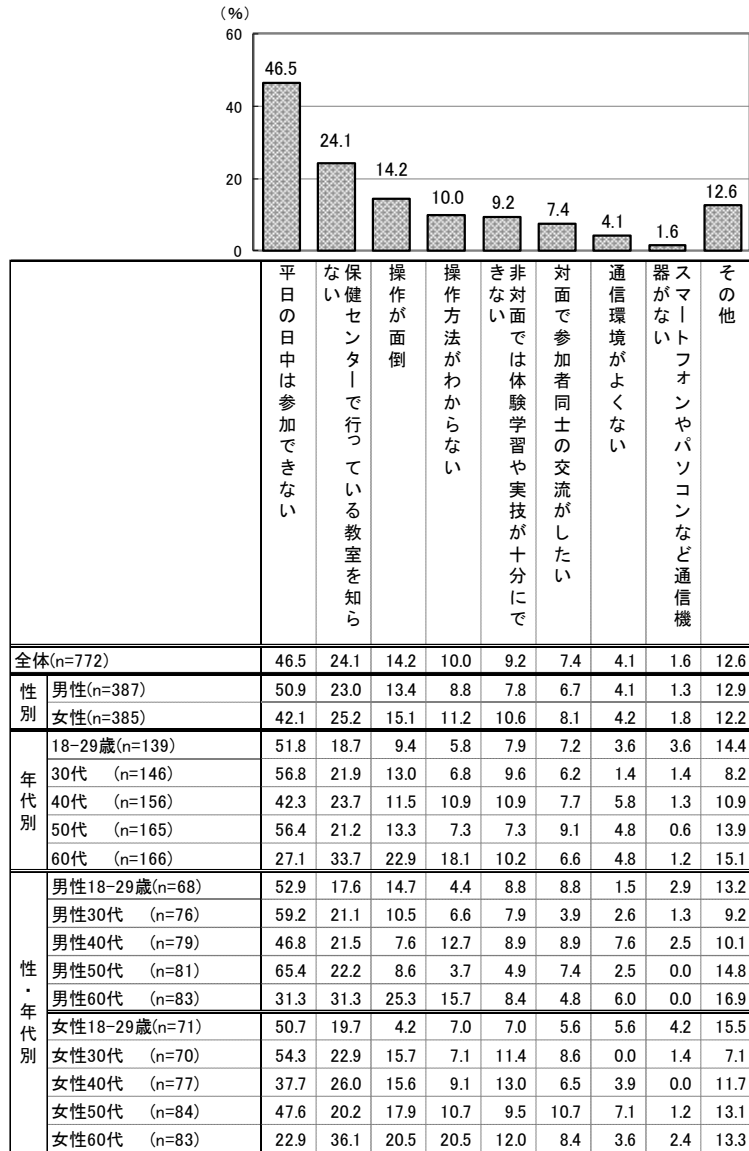
◎年代別で見ると、「参加したいと思う」は、年代が下がるにつれて高くなり、18-29歳で31%であった。

(Q9で、「参加したいと思わない」、「わからない」を回答した人が対象)

Q10. Web会議システムによる健康づくり教室等に「参加したいと思わない」、「わからない」理由(複数回答)

前問で、オンラインによる健康づくり教室や妊娠・出産、育児に関する教室に「参加したいと思わない」、「わからない」と選択した理由は何ですか。

以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



【全体結果】 Web 会議システムによる健康づくり教室等に「参加したいと思わない」、「わからない」と回答した人(772人)に、「参加したいと思わない」、「わからない」と回答した理由を聞いたところ、「平日の日中は参加できない」が47%で最も高く、「保健センターで行っている教室を知らない」(24%)、「操作が面倒」(14%)が続いた。

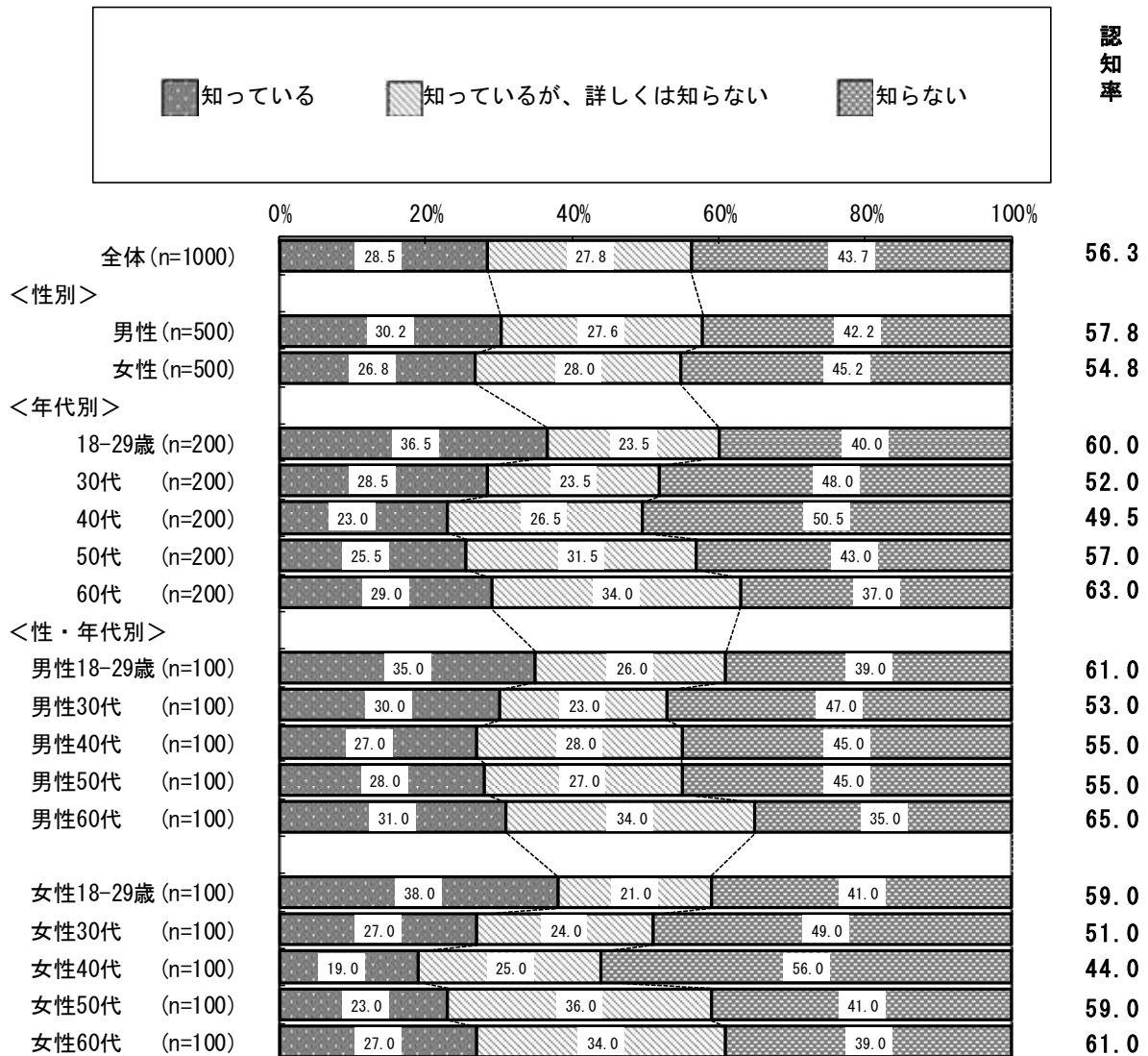
◎性別で見ると、「平日の日中は参加できない」は、男性(51%)が女性(42%)よりも9ポイント高かった。

◎年代別で見ると、「平日の日中は参加できない」は、60代が27%で最も低かった。

【火葬残灰（残骨灰）に関するアンケート】

Q11. 収骨後、火葬残灰が残ることの認知度

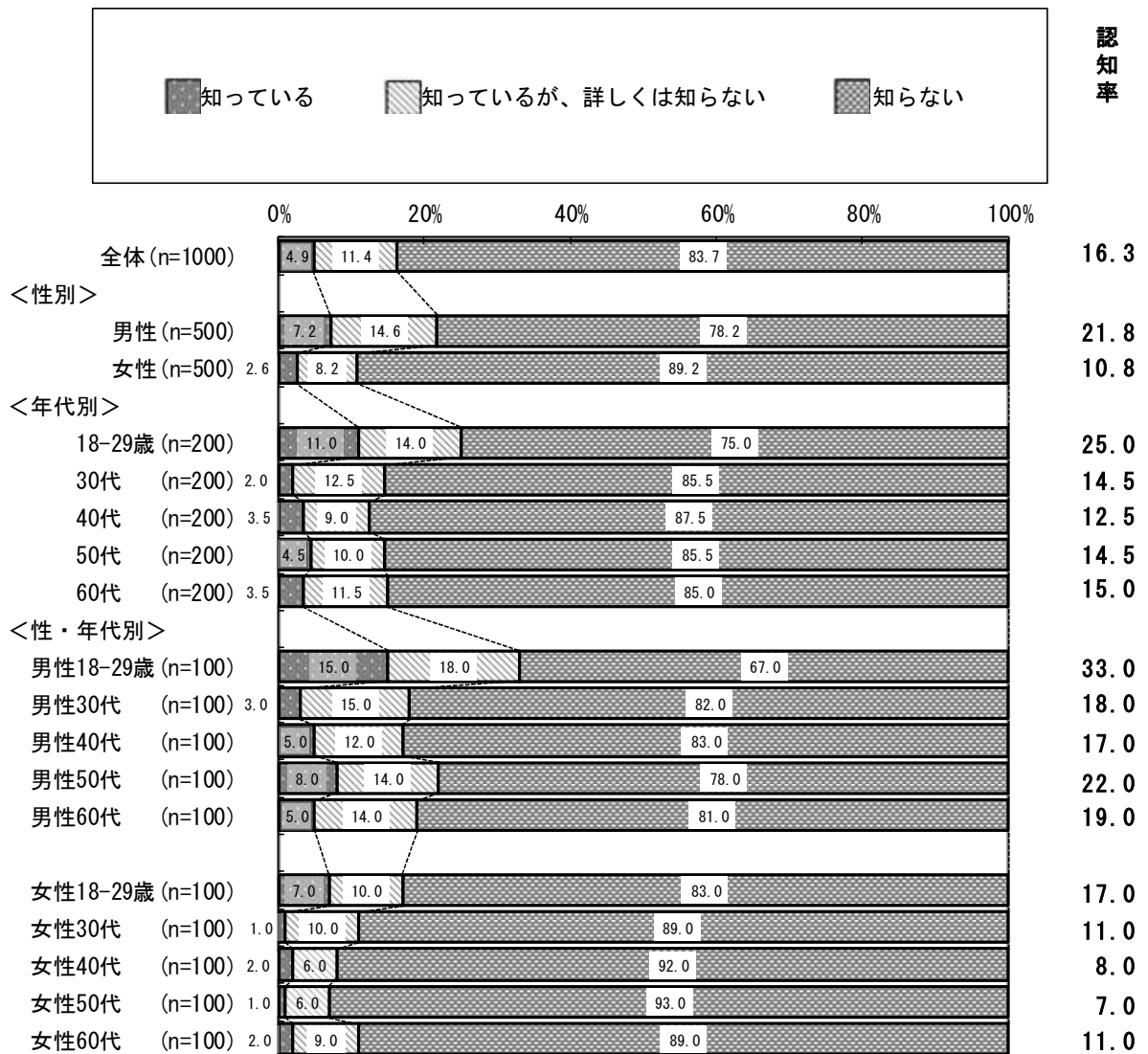
あなたは、収骨（お骨上げ）後に、火葬残灰（残骨灰）が残ることを知っていますか。



【全体結果】「知っている」(29%)と「知っているが、詳しくは知らない」(28%)を合わせた『認知率』は、56%であった。

Q 1 2. 火葬残灰に有害性物質が付着することの認知度

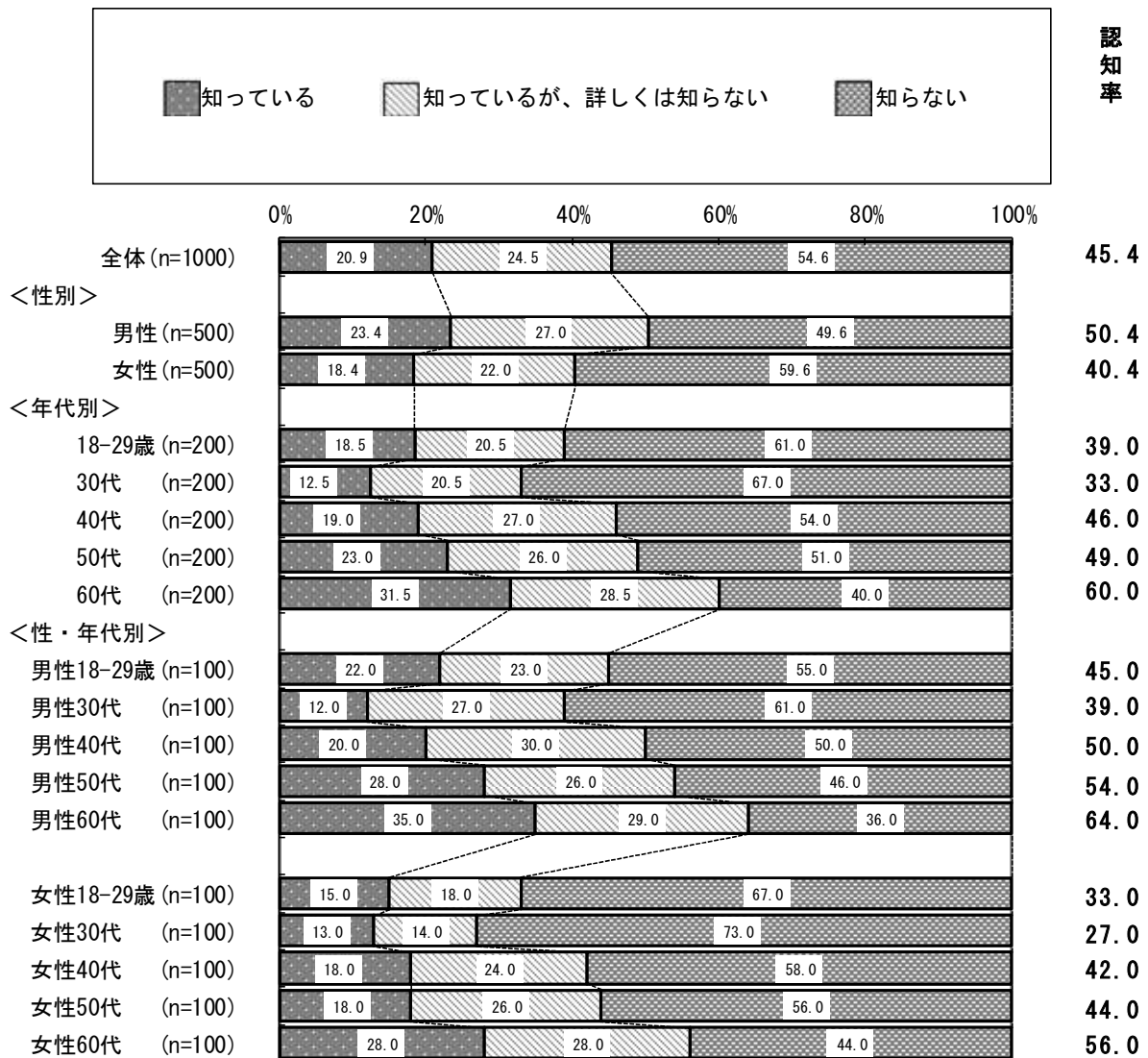
あなたは、火葬残灰(残骨灰)にダイオキシンなど有害性のある物質が付着していることを知っていますか。



【全体結果】「知っている」(5%)と「知っているが、詳しくは知らない」(11%)を合わせた『認知率』は、16%であった。

Q13. 火葬残灰に有価物が含まれていることの認知度

あなたは、火葬残灰（残骨灰）の中に、歯の治療等に用いられた金・銀・パラジウムなどの有価物が含まれている場合があることを知っていますか。



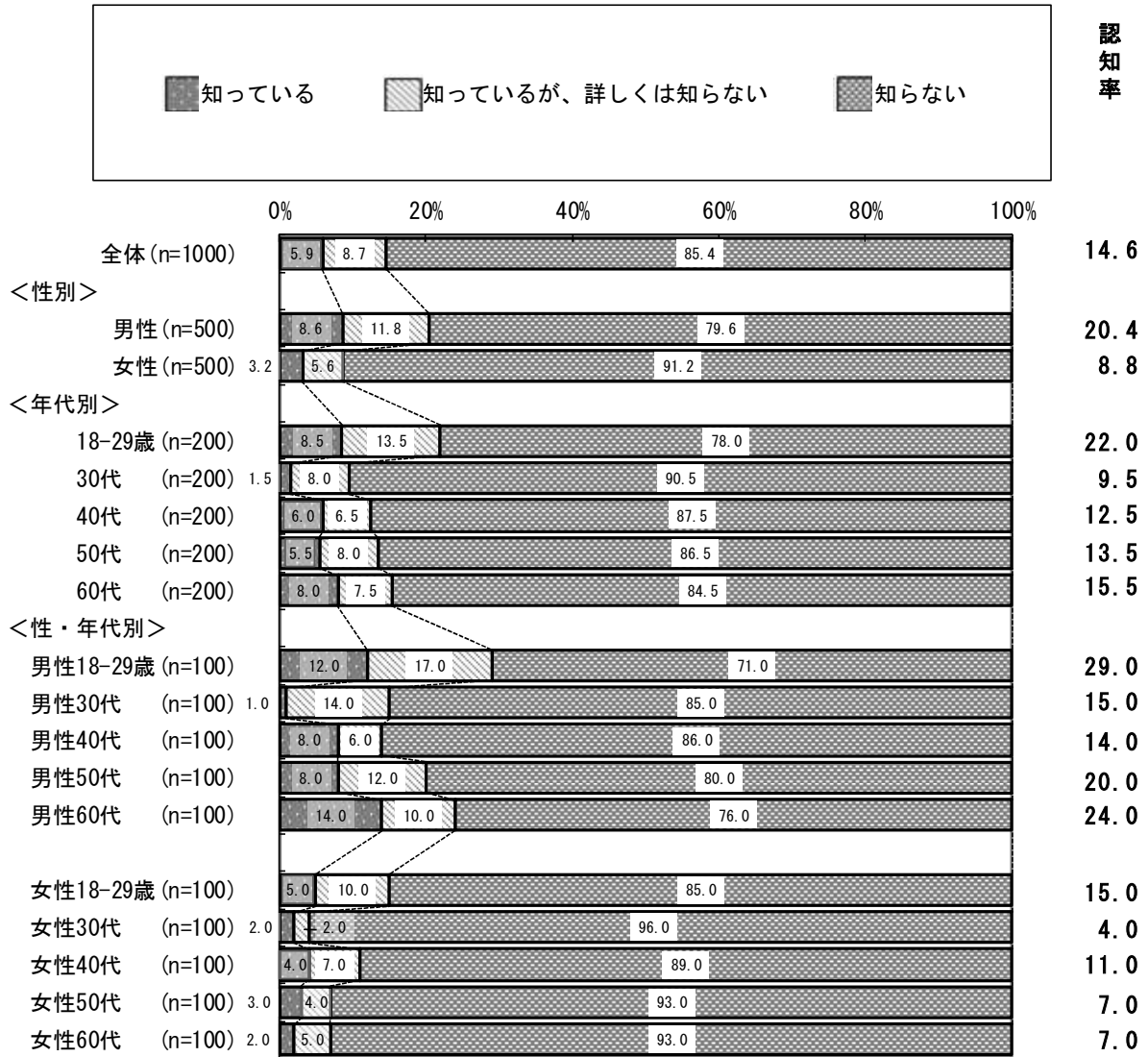
【全体結果】「知っている」(21%)と「知っているが、詳しくは知らない」(25%)を合わせた『認知率』は、45%であった。

- ◎性別で見ると、『認知率』は、男性(50%)が女性(40%)よりも10ポイント高かった。
- ◎年代別で見ると、『認知率』は、年代が上がるにつれて高くなり、60代で60%であった。

Q14. 火葬残灰の有価物を火葬場運営に役立てていることの認知度

市では、火葬残灰（残骨灰）の有害物質を除去し、供養して埋蔵していますが、有価物を売却し、火葬場などの運営に役立てている市町村もあります。

あなたは、このことを知っていますか。

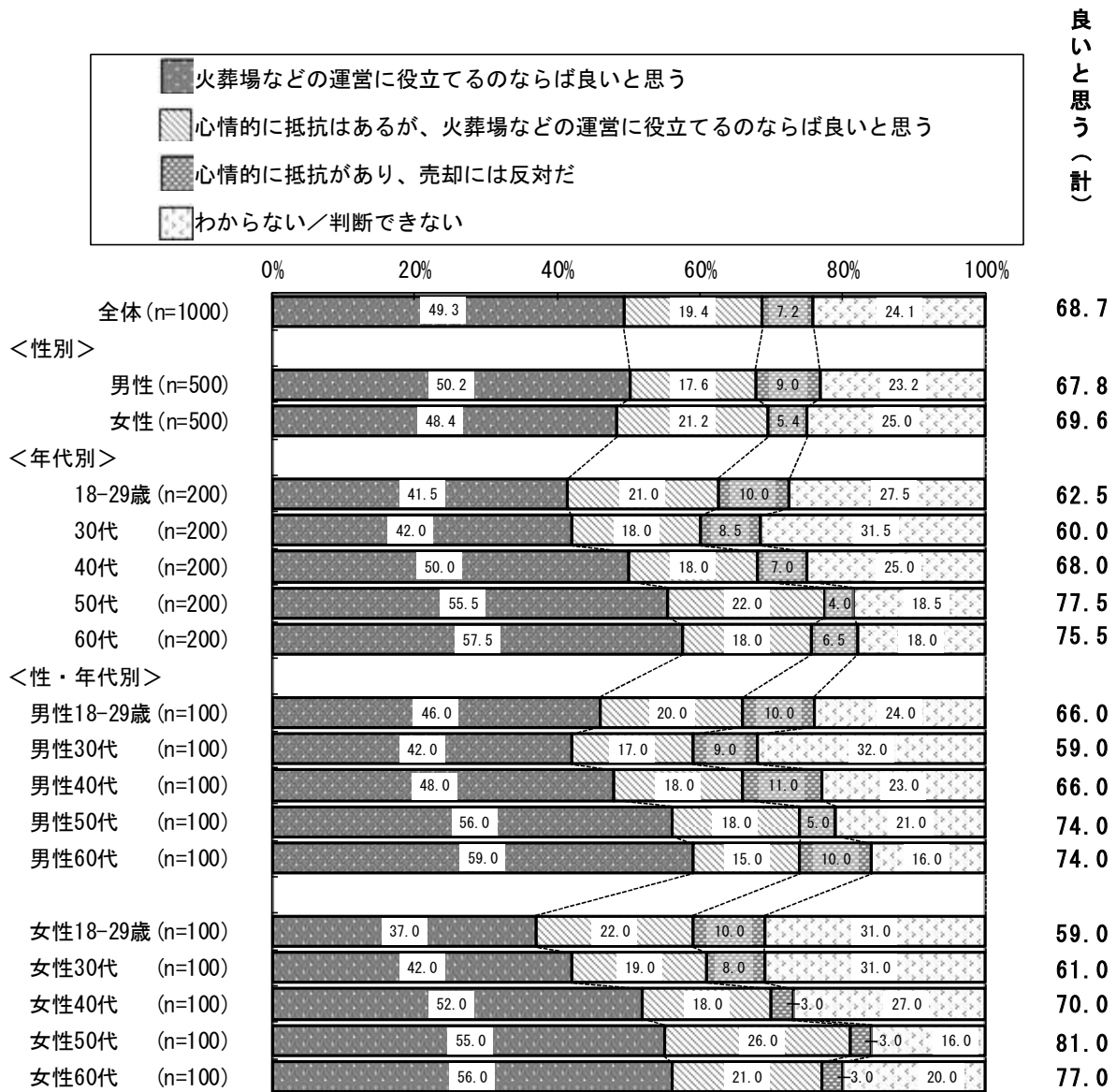


【全体結果】「知っている」(6%)と「知っているが、詳しくは知らない」(9%)を合わせた『認知率』は、15%であった。

◎性別で見ると、『認知率』は、男性(20%)が女性(9%)よりも11ポイント高かった。

Q15. 火葬残灰に含まれる有価物を火葬場の運営に役立てることをどう思うか

あなたは、火葬残灰（残骨灰）に含まれる有価物を売却し、市の火葬場などの運営に役立てることについてどう思いますか。なお、骨は有害物質を除去し、供養して埋蔵します。



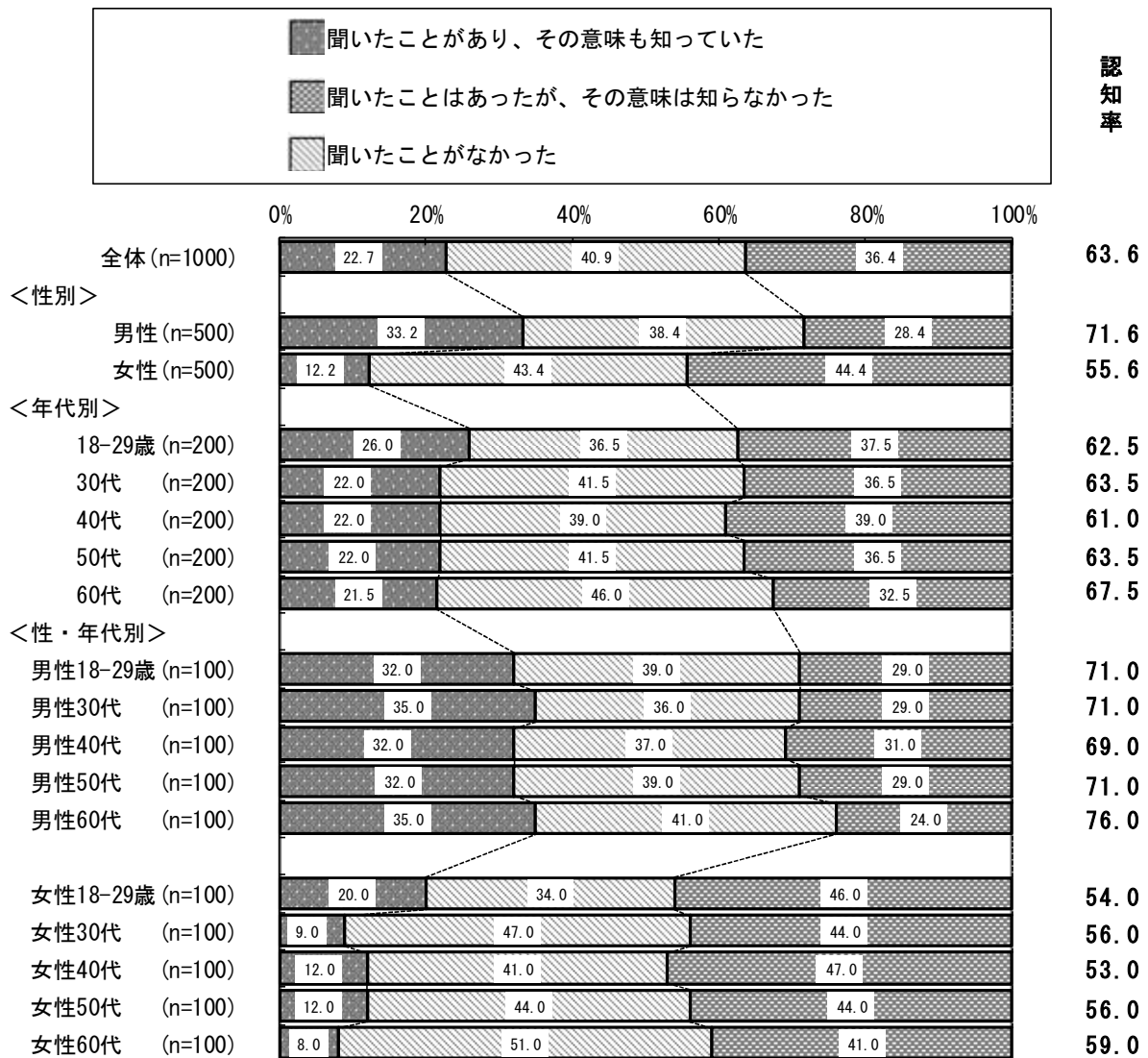
【全体結果】「火葬場などの運営に役立てるのならば良いと思う」（49%）と「心情的に抵抗はあるが、火葬場などの運営に役立てるのならば良いと思う」（19%）を合わせた『良いと思う（計）』は、69%であった。

◎年代別で見ると、『良いと思う（計）』は、50代で最も高く、78%であった。

【スマートシティに関するアンケート】

Q16. 「スマートシティ」の認知度

「スマートシティ」という言葉を、これまでに聞いたことがありましたか。



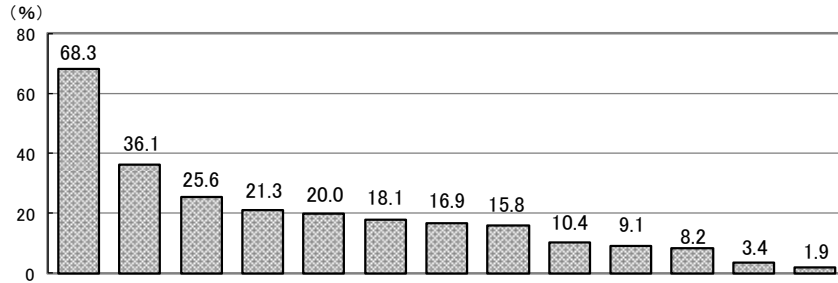
【全体結果】「聞いたことがあります、その意味も知っていた」(23%)と「聞いたことはあったが、その意味は知らなかった」(41%)を合わせた『認知率』は、64%であった。

◎性別で見ると、『認知率』は、男性(72%)が女性(56%)よりも16ポイント高かった。

Q17. 新技術やデータを活用したサービスとして、特に期待している分野（複数回答）

ICT等の新技術やデータを活用した行政や民間のサービスとして、今後特に期待している分野はどの分野ですか。

以下の中から、あてはまるものを3つまで選んでください。



| | 行政手続き（オンライン手続きの拡大、窓口予約・待ち人数通知など） | 防災・減災（災害情報・防災情報の発信など） | 防犯・安心（位置情報による見守りなど） | 子育て支援（オンラインでの育児相談など） | 交通（自動運転、乗り物の共同利用など） | 商業・観光（地域ポイント、デジタルクーポンなど） | 健康・ヘルスケア（健康情報のアプリ管理、健康習慣の提案など） | ライフライン（AI管理による水道等の安定供給など） | 環境（エネルギー利用の効率化など） | 広報（アプリによる地域情報の通知など） | 活動支援（デジタル化による地域コミュニケーションなど） | スタートアップ・起業家の支援（新技術を生かした産業の振興・創出など） | その他 |
|-----------------|----------------------------------|-----------------------|---------------------|----------------------|---------------------|--------------------------|--------------------------------|---------------------------|-------------------|---------------------|-----------------------------|------------------------------------|-----|
| 全体(n=1000) | 68.3 | 36.1 | 25.6 | 21.3 | 20.0 | 18.1 | 16.9 | 15.8 | 10.4 | 9.1 | 8.2 | 3.4 | 1.9 |
| 性別 | | | | | | | | | | | | | |
| 男性(n=500) | 66.8 | 34.6 | 20.4 | 19.6 | 23.2 | 16.0 | 16.4 | 17.0 | 12.2 | 9.4 | 9.2 | 5.0 | 1.8 |
| 女性(n=500) | 69.8 | 37.6 | 30.8 | 23.0 | 16.8 | 20.2 | 17.4 | 14.6 | 8.6 | 8.8 | 7.2 | 1.8 | 2.0 |
| 年代別 | | | | | | | | | | | | | |
| 18-29歳(n=200) | 63.5 | 22.5 | 21.5 | 26.0 | 21.0 | 20.0 | 15.5 | 13.5 | 7.5 | 8.0 | 7.5 | 8.5 | 1.0 |
| 30代 (n=200) | 67.0 | 28.0 | 24.5 | 41.0 | 16.5 | 25.0 | 16.0 | 14.0 | 6.5 | 8.5 | 7.0 | 3.0 | 1.0 |
| 40代 (n=200) | 66.0 | 35.0 | 28.0 | 19.5 | 22.0 | 16.5 | 15.0 | 14.0 | 11.0 | 9.0 | 11.5 | 3.0 | 1.5 |
| 50代 (n=200) | 68.5 | 44.5 | 25.5 | 9.0 | 24.0 | 16.5 | 15.5 | 18.5 | 13.0 | 9.5 | 10.0 | 1.0 | 3.5 |
| 60代 (n=200) | 76.5 | 50.5 | 28.5 | 11.0 | 16.5 | 12.5 | 22.5 | 19.0 | 14.0 | 10.5 | 5.0 | 1.5 | 2.5 |
| 性・年代別 | | | | | | | | | | | | | |
| 男性18-29歳(n=100) | 63.0 | 21.0 | 15.0 | 23.0 | 23.0 | 21.0 | 21.0 | 14.0 | 11.0 | 7.0 | 10.0 | 12.0 | 1.0 |
| 男性30代 (n=100) | 65.0 | 29.0 | 18.0 | 34.0 | 19.0 | 25.0 | 14.0 | 17.0 | 9.0 | 9.0 | 8.0 | 4.0 | 1.0 |
| 男性40代 (n=100) | 58.0 | 32.0 | 24.0 | 20.0 | 28.0 | 14.0 | 14.0 | 16.0 | 14.0 | 10.0 | 13.0 | 6.0 | 1.0 |
| 男性50代 (n=100) | 68.0 | 34.0 | 22.0 | 8.0 | 29.0 | 11.0 | 17.0 | 20.0 | 14.0 | 10.0 | 10.0 | 1.0 | 3.0 |
| 男性60代 (n=100) | 80.0 | 57.0 | 23.0 | 13.0 | 17.0 | 9.0 | 16.0 | 18.0 | 13.0 | 11.0 | 5.0 | 2.0 | 3.0 |
| 女性18-29歳(n=100) | 64.0 | 24.0 | 28.0 | 29.0 | 19.0 | 19.0 | 10.0 | 13.0 | 4.0 | 9.0 | 5.0 | 5.0 | 1.0 |
| 女性30代 (n=100) | 69.0 | 27.0 | 31.0 | 48.0 | 14.0 | 25.0 | 18.0 | 11.0 | 4.0 | 8.0 | 6.0 | 2.0 | 1.0 |
| 女性40代 (n=100) | 74.0 | 38.0 | 32.0 | 19.0 | 16.0 | 19.0 | 16.0 | 12.0 | 8.0 | 8.0 | 10.0 | 0.0 | 2.0 |
| 女性50代 (n=100) | 69.0 | 55.0 | 29.0 | 10.0 | 19.0 | 22.0 | 14.0 | 17.0 | 12.0 | 9.0 | 10.0 | 1.0 | 4.0 |
| 女性60代 (n=100) | 73.0 | 44.0 | 34.0 | 9.0 | 16.0 | 16.0 | 29.0 | 20.0 | 15.0 | 10.0 | 5.0 | 1.0 | 2.0 |

【全体結果】「行政手続き（オンライン手続きの拡大、窓口予約・待ち人数通知 など）」が68%で最も高く、「防災・減災（災害情報・防災情報の発信 など）」（36%）、「防犯・安心（位置情報による見守り など）」（26%）が続いた。

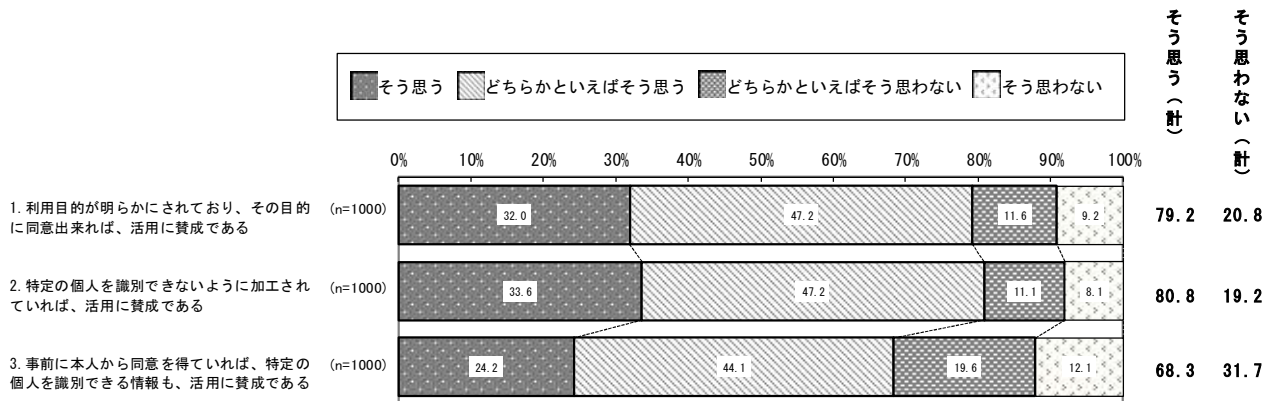
◎性別で見ると、「防犯・安心（位置情報による見守り など）」は、女性（31%）が男性（20%）よりも11ポイント高かった。

◎性・年代別で見ると、「防災・減災（災害情報・防災情報の発信 など）」は、年代が上がるにつれて高くなり、60代で51%であった。

Q18. 行政や民間事業者等がパーソナルデータを活用することをどう思うか

ICT（情報通信技術）を使って新しいサービスを作り出していくときには、パーソナルデータが活用される場合があります。

行政や民間事業者等がパーソナルデータを活用することについて、あなたの考えにあてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。



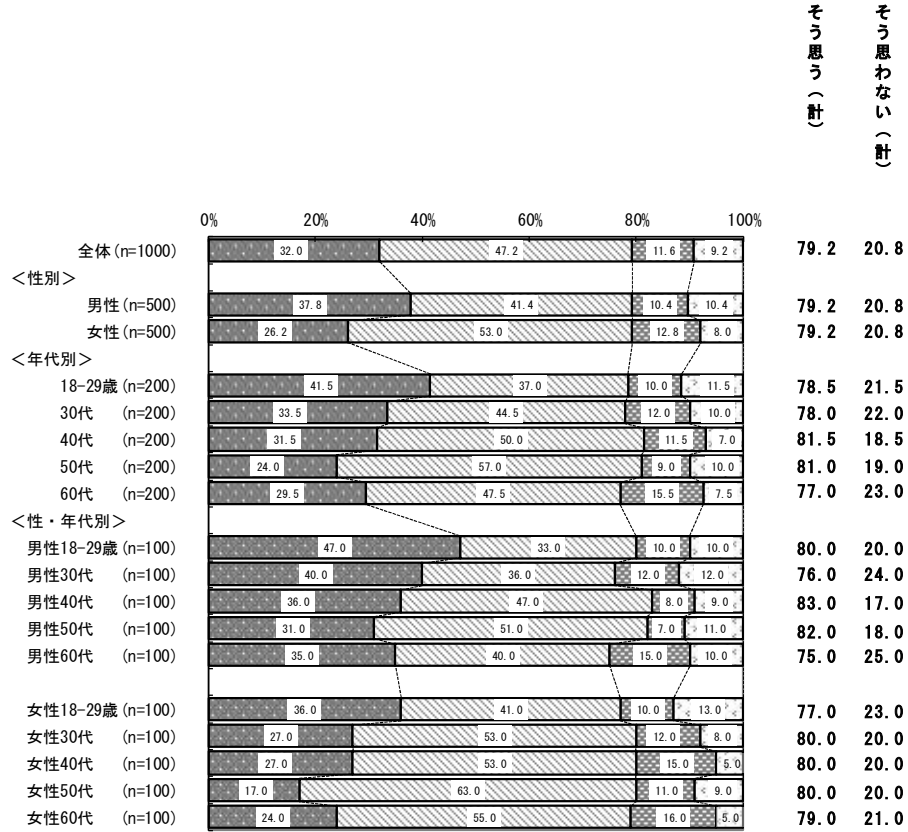
1. 利用目的が明らかにされており、その目的に同意出来れば、活用に賛成である
【全体結果】「そう思う」(32%)と「どちらかといえばそう思う」(47%)を合わせた『そう思う(計)』は、79%であった。

2. 特定の個人を識別できないように加工されていれば、活用に賛成である
【全体結果】「そう思う」(34%)と「どちらかといえばそう思う」(47%)を合わせた『そう思う(計)』は、81%であった。

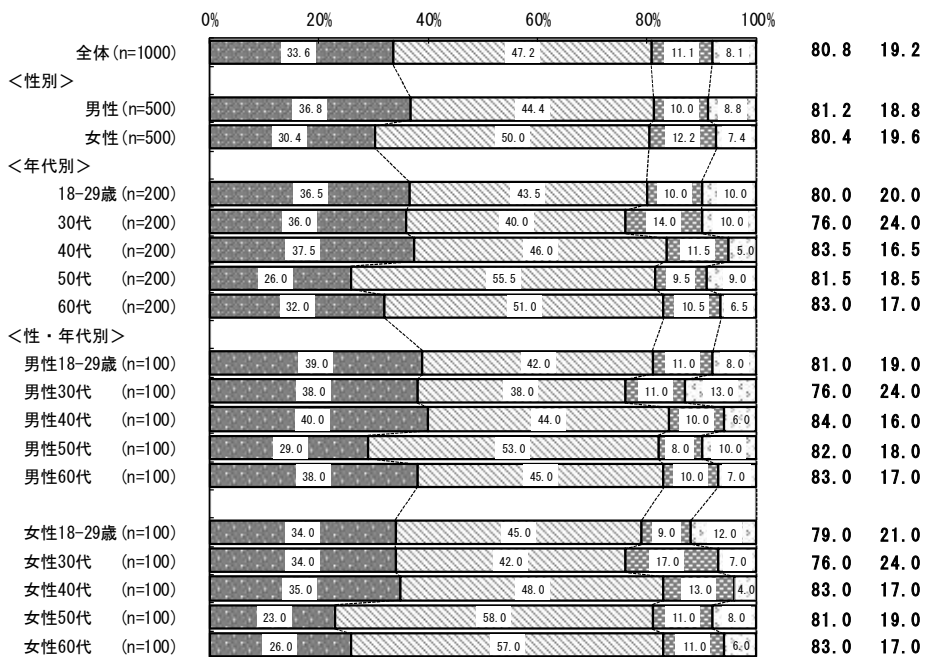
3. 事前に本人から同意を得ていれば、特定の個人を識別できる情報も、活用に賛成である
【全体結果】「そう思う」(24%)と「どちらかといえばそう思う」(44%)を合わせた『そう思う(計)』は、68%であった。



1. 利用目的が明らかになっており、その目的に同意出来れば、活用に賛成である

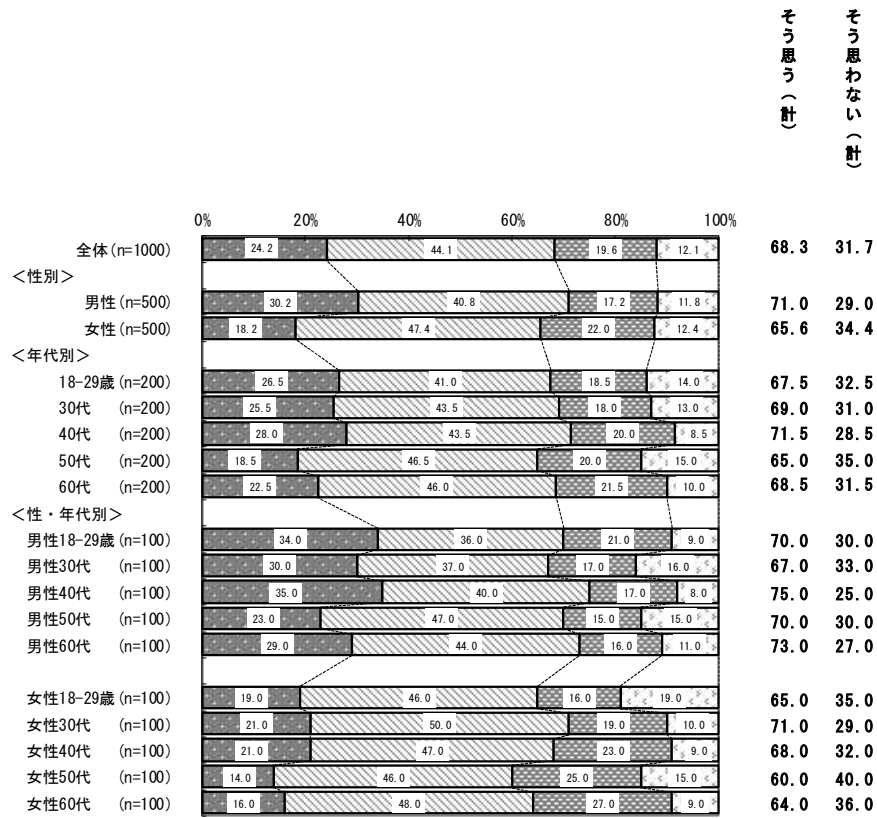


2. 特定の個人を識別できないように加工されていけば、活用に賛成である



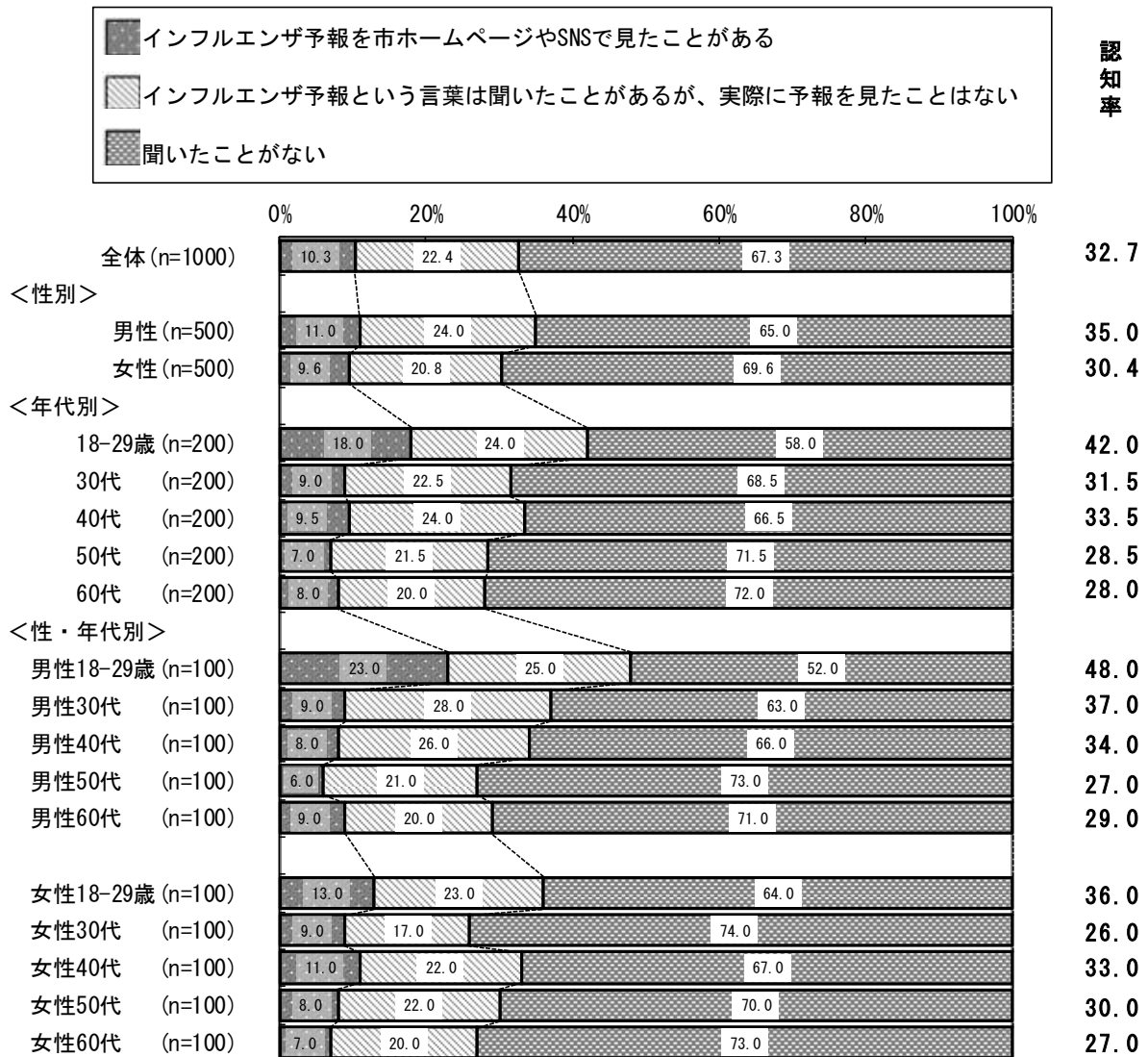


3. 事前に本人から同意を得ていれば、特定の個人を識別できる情報も、活用に賛成である



Q19. インフルエンザ予報の認知度

さいたま市では、令和元年度から、民間事業者と連携してAI技術を利用したインフルエンザ予報を行っており、市ホームページやSNSで情報を発信しています。このインフルエンザ予報を知っていましたか。



【全体結果】「インフルエンザ予報を市ホームページやSNSで見たことがある」(10%)と「インフルエンザ予報という言葉は聞いたことがあるが、実際に予報を見たことはない」(22%)を合わせた『認知率』は、33%であった。

◎性別で見ると、『認知率』は、男性(35%)が女性(30%)よりも5ポイント高かった。
 ◎年代別で見ると、『認知率』は、年代が下がるにつれて高くなる傾向にあり、18-29歳で42%であった。

3 調査票（アンケート画面）

SC1
必須

あなたのお住まいをお答えください。

- 1.さいたま市西区
- 2.さいたま市北区
- 3.さいたま市大宮区
- 4.さいたま市見沼区
- 5.さいたま市中央区
- 6.さいたま市桜区
- 7.さいたま市浦和区
- 8.さいたま市南区
- 9.さいたま市緑区
- 10.さいたま市岩槻区
- 11.その他（具体的に）

SC2
必須

あなたの性別と年齢をお答えください。

- 男性 18歳未満
- 男性 18～29歳
- 男性 30～39歳
- 男性 40～49歳
- 男性 50～59歳
- 男性 60～69歳
- 男性 70～79歳
- 男性 80歳以上
- 女性 18歳未満
- 女性 18～29歳
- 女性 30～39歳
- 女性 40～49歳
- 女性 50～59歳
- 女性 60～69歳
- 女性 70～79歳
- 女性 80歳以上

「市報さいたま」の配布と電子版の利用について、質問します。

「市報さいたま」は、市政情報をすべての市民に公平に届けるため、市内全世帯への配布を行うとともに、図書館等の公共施設や郵便局、市内各駅などにも設置しています。また、市ホームページ等で「市報さいたま」電子版を公開しています。

Q1 あなたは、図書館等の公共施設や郵便局、市内各駅に設置されているラック等から「市報さいたま」を入手したことがありますか。
必須 以下の中から、あてはまるものを**すべて**選んでください。

- 1.図書館
- 2.公民館
- 3.区役所
- 4.支所や市民の窓口
- 5.郵便局
- 6.駅のラック
- 7.公共施設で入手したことはないが、自宅で届いたものを確認したことがある
- 8.入手したことはないが、設置されていることは知っていた
- 9.入手したことはないし、設置されていることも知らなかった
- 10.その他（具体的に）
- 11.覚えていない／わからない

Q2 あなたは、Q1の施設以外で「市報さいたま」をどこで入手できると便利だと感じますか。
必須 以下の中から、あてはまるものを**すべて**選んでください。

- 1.銀行等の金融機関
- 2.大型商業施設
- 3.コンビニエンスストア
- 4.病院
- 5.上記Q1の施設で入手するため、その他の施設で入手する必要はない
- 6.自宅に届くため、Q1及びQ2の施設で入手する必要はない
- 7.電子媒体で閲覧するため、Q1及びQ2の施設で入手する必要はない
- 8.その他（具体的に）
- 9.わからない

Q3
必須

あなたは、「市報さいたま」の電子版を読んだことがありますか。

- 複数回読んだことがある
- 1度だけ読んだことがある
- 読んだことはないが、「市報さいたま」電子版のことは知っていた
- 読んだことはないし、「市報さいたま」電子版があることも知らなかった
- 覚えていない／わからない

Q4
必須

あなたは、どの電子媒体で「市報さいたま」電子版を読んだことがありますか。
以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。

- 1.市ホームページに掲載されているPDF版
- 2.ブックシェルフ埼玉
- 3.マチイロ
- 4.カタログポケット
- 5.マイ広報紙
- 6.デジタルブック版
- 7.その他（具体的に）
- 8.覚えていない

Q5
必須

「市報さいたま」は市内の施設等に設置しており、電子版でも公開していますが、紙媒体での自宅配布も必要だと感じますか。

- 1.必要だと感じる
- 2.不要だと感じる
- 3.わからない

さいたま市の保健センターについて質問します。

Q6 必須 保健センターでは、保健師、管理栄養士、歯科衛生士等が妊娠・出産・育児や生活習慣病予防、市民の皆様の健康づくりのための各種健康教室・相談等を実施しています。
あなたは、さいたま市の保健センターを知っていますか。

- 1. 知っていて利用したことがある
- 2. 知っているが利用したことはない
- 3. 知らない／わからない

Q7 必須 さいたま市の保健センターで利用したことがあるものは何ですか。
以下の中から、あてはまるものを**すべて**選んでください。

- 1. 母子健康手帳の交付
- 2. 妊産婦・子どもの健康に関する相談や教室
- 3. 成人の健康に関する相談や健康づくり教室
- 4. 保健所業務に係る申請
- 5. その他（具体的に）
- 6. 覚えていない

Q8 必須 さいたま市ではインターネット上の動画サイト（YouTube）で保健センターの教室（離乳食教室等）の動画を配信しています。
インターネット上の動画視聴について、あてはまるものをそれぞれ1つずつ選んでください。

| | 1. 複数回視聴したことがある | 2. 1度だけ視聴したことがある | 3. 視聴したことはないが、存在は知っていた | 4. 視聴したことはないし、存在も知らない | 5. 覚えていない／わからない |
|--|-------------------------|-----------------------|------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. インターネット上の動画サイト(YouTube等) ※保健センター以外の動画も含む | ➡ <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 2. 保健センターの動画 | ➡ <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

Q9 **必須** あなたは、保健センターでWeb会議システム（Zoom、Teams等）による健康づくり教室（ストレッチや運動、栄養・食生活に関するもの）や妊娠・出産、育児に関する教室を開催する場合、参加したいと思いますか。

- 1.参加したいと思う
- 2.参加したいと思わない
- 3.わからない

Q10 **必須** 前問で、オンラインによる健康づくり教室や妊娠・出産、育児に関する教室に「参加したいと思わない」、「わからない」と選択した理由は何ですか。以下の中から、あてはまるものを**すべて**選んでください。

- 1.操作方法がわからない
- 2.操作が面倒
- 3.スマートフォンやパソコンなど通信機器がない
- 4.通信環境がよくない
- 5.対面で参加者同士の交流がしたい
- 6.非対面では体験学習や実技が十分にできない
- 7.保健センターで行っている教室を知らない
- 8.平日の日中は参加できない
- 9.その他（具体的に）

火葬残灰（残骨灰）について、質問します。

※火葬残灰（残骨灰）とは、ご遺体を火葬し、ご遺族が骨壺に遺骨を納めたあとに火葬場に残していった骨や灰をいいます。

Q11
必須

あなたは、収骨（お骨上げ）の後に、火葬残灰（残骨灰）が残ることを知っていますか。

- 1.知っている
- 2.知っているが、詳しくは知らない
- 3.知らない

Q12
必須

あなたは、火葬残灰（残骨灰）にダイオキシンなど有害性のある物質が付着していることを知っていますか。

- 1.知っている
- 2.知っているが、詳しくは知らない
- 3.知らない

Q13
必須

あなたは、火葬残灰（残骨灰）の中に、歯の治療等に用いられた金・銀・パラジウムなどの有価物が含まれている場合があることを知っていますか。

- 1.知っている
- 2.知っているが、詳しくは知らない
- 3.知らない

Q14
必須

市では、火葬残灰（残骨灰）の有害物質を除去し、供養して埋蔵していますが、有価物を売却し、火葬場などの運営に役立っている市町村もあります。
あなたは、このことを知っていますか。

- 1.知っている
- 2.知っているが、詳しくは知らない
- 3.知らない

Q15 **必須** あなたは、火葬残灰（残骨灰）に含まれる有価物を売却し、市の火葬場などの運営に役立てることにどう思いますか。なお、骨は有害物質を除去し、供養して埋蔵します。

- 1.火葬場などの運営に役立てるのならば良いと思う
- 2.心情的に抵抗はあるが、火葬場などの運営に役立てるのならば良いと思う
- 3.心情的に抵抗があり、売却には反対だ
- 4.わからない／判断できない

スマートシティについて、質問します。

スマートシティとは「ICT（情報通信技術）等の新技術や官民各種のデータを活用した市民一人一人に寄り添ったサービスの提供や、各種分野におけるマネジメント(計画、整備、管理・運営等)の高度化等により、都市や地域が抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける、持続可能な都市や地域」のことを言います。スマートシティは、多都市・多機関にまたがって、行政だけでなく、民間事業者や学術・研究機関が連携して進めていく取り組みです。

Q16 **必須** 「スマートシティ」という言葉を、これまでに聞いたことがありましたか。

- 1.聞いたことがあり、その意味も知っていた
- 2.聞いたことはあったが、その意味は知らなかった
- 3.聞いたことがなかった

さいたま市ではICT（情報通信技術）等の新技術や、データ等を活用することで、様々な社会課題の解決や市民生活の質の向上、地域経済の活性化などを図る「スマートシティさいたまモデル」の構築に取り組んでおり、市民の皆様の生活が便利に、快適になるような新たなサービスを提供することを目指しています。そのため、皆様がICT等の新技術や、データ等を活用したどのようなサービスを求めているのか、お尋ねします。

※詳しくは、以下のサイトをご覧ください。

■ [E-KIZUNA.net](https://www.e-kizuna.net) 未来を創る！スマートシティさいたま

Q17 ICT等の新技術やデータを活用した行政や民間のサービスとして、今後特に期待している分野は
必須 どの分野ですか。
以下の中から、あてはまるものを**3つまで**選んでください。

- 1.行政手続き（オンライン手続きの拡大、窓口予約・待ち人数通知 など）
- 2.広報（アプリによる地域情報の通知 など）
- 3.健康・ヘルスケア（健康情報のアプリ管理、健康習慣の提案 など）
- 4.子育て支援（オンラインでの育児相談 など）
- 5.環境（エネルギー利用の効率化 など）
- 6.防災・減災（災害情報・防災情報の発信 など）
- 7.交通（自動運転、乗り物の共同利用 など）
- 8.ライフライン（AI管理による水道等の安定供給 など）
- 9.スタートアップ・起業家の支援（新技術を生かした産業の振興・創出 など）
- 10.商業・観光（地域ポイント、デジタルクーポン など）
- 11.コミュニティ（デジタル化による地域活動支援 など）
- 12.防犯・安心（位置情報による見守り など）
- 13.その他（自由記述）

Q18
必須

ICT（情報通信技術）を使って新しいサービスを作り出していくときには、パーソナルデータが活用される場合があります。行政や民間事業者等がパーソナルデータを活用することについて、あなたの考えにあてはまるものを、それぞれ1つずつ選んでください。

※この質問での「パーソナルデータ」は、次の通りとしてお答えください。
個人の属性情報、移動・行動・購買履歴、ウェアラブル機器（身体に装着するコンピュータ等）から収集した情報

| | 1. そう思う | 2. どちらかといえばそう思う | 3. どちらかといえばそう思わない | 4. そう思わない |
|--|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 1. 利用目的が明らかにされており、その目的に同意出来れば、活用に賛成である | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 2. 特定の個人を識別できないように加工されていれば、活用に賛成である | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 3. 事前に本人から同意を得ていれば、特定の個人を識別できる情報も、活用に賛成である | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

Q19
必須

さいたま市では、令和元年度から、民間事業者と連携してAI技術を利用したインフルエンザ予報を行っており、市ホームページやSNSで情報を発信しています。このインフルエンザ予報を知っていましたか。

※詳しくは、以下のサイトをご覧ください。

■（終了しました）AIを活用した「インフルエンザ予報サービス」の実証を行いました（令和3年度）

- 1. インフルエンザ予報を市ホームページやSNSで見たことがある
- 2. インフルエンザ予報という言葉は聞いたことがあるが、実際に予報を見たことはない
- 3. 聞いたことがない

このさいたま市インターネット市民意識調査業務の委託に要する経費は196万円です。